



私の趣味

青木 芳一

◆豪華客船を見るのが趣味です

私のふるさとは、横浜です。父が船舶関係の仕事をしていたため、小学生の頃から横浜港へ連れていかれ、大型船を見る機会がありました。20年前頃から神戸港や大阪港の入港出港情報により、豪華客船を見に行くようになりました。特に、遠くから船体が徐々に近づき、接岸する様子や歓迎風景は、いつ見ても興奮します。

昨年(2017年)の12月27日、豪華客船、大きさ世界ランキング(総トン数)8位ノルウェー・ジャンジョイが大阪港天保山岸壁に入港しました。地下鉄大阪港駅を降り、港へ近づいていくと巨大なマンションが浮かんでいるようでした。上海、天津を母港とする中国人旅行者専用の客船です。船首にはフェニックスが極彩色で描かれ、華やかな船体です。総トン数167,725t、長さは333.46m、乗客定員3,883名、建造は2017年です。



12時30分入港時には、歓迎放水(カラー)がされたそうですが、午後3時に着いたため見ることができませんでした。午後9時に出港し、次の寄港地は高知です。

安治川を公営渡船に乗り、JR桜島駅から帰路に着きました。

安治川を公営渡船に乗り、JR桜島駅から帰路に着きました。

◆船の名前について

港へ行くと、船の船首や船尾に船名が書かれています。停泊している船が確認できます。日本の船は、日本語で書くことが決められています。

ところで、日本の船は、昔から「丸」をつけることが多く、外国では「マルシップ」として知られています。すでに、平安時代末期の1187年、京都の仁和寺に伝わる書物のなかに、「坂東丸」という船名があります。室町時代には、「〇〇丸」という船が、たくさんあったようです。

「丸」を付けるようになったのは、いくつかの説があります。昔の人名に「〇〇麿」があります。また、自分のことを「麿は」とも言いました。愛用の品物の名にも「〇〇麿」と付けたようです。さらに、船にも付けられるようになって、「麿」が「丸」に変わったという説です。

また、古くは、問屋のことを問丸といいましたが、その問丸が所有する船にも「丸」を付けるようになったという説です。

明治時代に「船舶法取扱手続」で、なるべく「丸」を付けるように勧められたため、その後の多くの船が「丸」を付けるようになりました。(2001年に条項削除)

新聞などで、外国船に「〇〇号」とありますが、本当は付いていません。報道の際、船名らしさを表すため便宜上使用しているようです。

グローバル化により海運業界は、税金対策や人件費削減のため「マルシップ」が減っていくのは、寂しい気持ちになります。



横浜山下公園の氷川丸